

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター
循環型森林管理技術分野 特任助教
募集要項

附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターは、文部科学省により「冷温帯林における林業技術教育・森林環境教育・自然環境管理教育共同利用拠点」として認定されました。この教育関係共同利用拠点による教育を推進するため、下記募集要項により特任助教1名を広く公募します。選考は本学の定める手続きにより行い、結果は応募者本人にお知らせします。

1. 職種・人員：特任助教（契約職員（任期付き））・1名
2. 所属：農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターに所属し、循環型森林管理技術分野（演習林）を担当します。
3. 担当教育研究専門分野：循環型森林管理技術分野
 - (1) 主な担当科目
森林インターンシップ（分担）、冷温帯林と持続的林業（公開森林実習）（分担）、総合フィールド科学実習（分担）、教育関係共同利用拠点に関する実習（分担）
 - (2) 主な担当エクステンション
フィールドセミナー、フォレストテクニカルエクステンション
 - (3) その他
教育関係共同利用拠点に関する企画・広報・運営の業務
4. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する方
 - (2) 当該専門分野（森林生態、森林生産、自然環境管理など）において特任助教としてふさわしい研究業績を有する方
 - (3) 森林フィールドにおける自然環境管理領域などに関する実習を担当できる方
 - (4) 教育関係共同利用拠点の企画・広報・運営に関する業務を熱心かつ積極的に行える方
 - (5) 外国語（英語）に堪能で国際交流を積極的に行える方
5. 採用予定日：平成28年11月1日
6. 雇用期間：平成28年11月1日～平成29年3月31日
(平成29年4月1日以降は、勤務成績などにより1年単位での更新をする場合があります（初採用日から起算して原則5年以内）。)

7. 提出書類

- (1) 履歴書1通(写真貼付、署名、捺印のあるもの。市販の履歴書で可)
- (2) 研究業績目録1部(別紙作成要領を参照)
- (3) 主要論文別刷5編以内(コピー可)
- (4) これまでの研究概要及び教育経験(2,000字程度)
- (5) 今後の教育研究に対する抱負(2,000字程度)

8. 応募締切日:平成28年9月30日(金)(必着)

9. 応募書類提出先及び問い合わせ先

提出先:〒020-8550 盛岡市上田3-18-8

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育センター

教授 澤口勇雄 宛

(応募封筒には「附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター特任助教応募書類在中」と朱書きして、簡易書留で郵送してください。なお応募書類は返却致しません。)

問い合わせ先:電話:019-621-6233, e-mail: sawai@iwate-u.ac.jp

10. 書類選考の後、面接を実施して最終選考を行います(この場合の交通費等経費は自己負担となります)。

11. その他

- (1) 本募集に係る契約職員の就業に関しては、国立大学法人岩手大学契約職員就業規則が適用されます。
- (2) 農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育センターのホームページURLは下記の通りです。

<http://news7al.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/>

(3) 岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に係わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等に記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著書名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著書とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
 1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agricultural in Japan, "Agricultural Sciences" (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.